

**令和4年度第3回小牧市児童館運営委員会
会議録**

日 時	令和5年2月8日（水）午前10時～午前11時20分
場 所	まなび創造館 研修室（ラピオ5階）
出 席 者	【委員】8名（※敬称略） 植松浩二郎、中野江美子、富嶋恵子、中島智子、水野圭一、花山佳世、沖本喜久江、小島恵子 【事務局】14名 こども未来部長、こども未来部次長、指導保育士、多世代交流プラザ所長、多世代交流プラザ事業推進係長、多世代交流プラザ児童館担当、こまきこども未来館副館長、味岡児童館長、篠岡児童館長、小牧児童館長、小牧南児童館長、北里児童館長、西部児童館長、大城児童館長
会議内容	1 こども未来部長あいさつ 2 報告 （1）令和4年度児童館の現状報告について （2）令和4年度児童館・子育て支援室利用状況について （3）児童館利用者アンケートについて 3 議題 （1）令和5年度児童館活動方針・活動目標（案）について （2）令和5年度児童館クラブ活動・行事計画（案）について （3）令和5年度児童館の子育て支援（案）について
事 務 局	委員の皆様方には、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。ただ今より、令和4年度第3回小牧市児童館運営委員会を開催いたします。 はじめに、主任児童委員の改選に伴い、委員の変更がありましたので、お名前をご紹介します。お手元の委員名簿をご覧ください。穂積友子委員、来治英治委員が退任され、新たに、中島智子委員、早稲田明美委員にご承諾いただきました。よろしく願いいたします。 続きまして、会議の定足数に関して報告します。小牧市児童館の管理に関する規則第15条第2項で過半数の出席が必要とされていますが、本日は8名の委員に出席いただいております。会議は成立しています。長谷川委員、早稲田委員からは、ご欠席の連絡をいただいております。 また、この会議は公開となっておりますが、ただいまのところ傍聴者はなしとなっております。 それでは、はじめに、こども未来部長の鍛冶屋より、あいさつを申し上げます。
こども未来部長	皆様、おはようございます。本日はご多用にもかかわらず、第3回小牧市児童館運営委員会にご出席を賜り、誠にありがとうございます。また、皆様方には本市の教育・福祉行政の推進に日頃より格別のご支援・ご協力をいただき、改めて厚く感謝を申し上げます。 さて、今年度につきましては、昨年度のような緊急事態宣言による臨時閉館もなく、より多くの事業を順調に実施することができました。 新型コロナの感染症法上の位置づけにつきましては、5月に「2類相当」から季節性インフルエンザなどと同じ「5類」に移行する方針が政府から発表を

	されたところではありますが、今後も、引き続き、国の動向を注視しながら、対応について十分検討し、より良い児童館運営に努めてまいりたいと考えております。 本市における子育て支援の拠点として、各児童館、こども未来館ともに、今後益々発展していくために、委員の皆様には、それぞれの見地から、忌憚のないご意見をいただきたいと思っておりますので、本日はどうぞよろしくお願いいたします。
事務局	ここからの進行につきましては、規則第14条第2項で「委員長は、委員会を代表し、会務を総理し、会議の議長となる。」ことが規定されていますので、植松委員長よろしく申し上げます。
委員長	植松と申します。よろしくお願いいたします。事務局並びに、児童館の皆様、資料をおまとめいただきまして、ありがとうございます。 では、次第に従いまして、早速、報告事項に移らせていただきます。 (1) 令和4年度児童館の現状報告について、並びに (2) 令和4年度児童館・子育て支援室利用状況について 一括して、説明をお願いいたします。
こども未来館副館長	それでは、(1) 令和4年度児童館の現状報告について、説明いたします。お手元の資料1をご覧ください。こまきこども未来館から報告させていただきます。よろしくお願いいたします。資料1-1をご覧ください。 今年度は、「安心、楽しい、また来たい それがこまきこども未来館」という目標を掲げ、児童厚生員がそれぞれ来館した親子や子どもたちに安心して過ごしてもらう中で、自分で遊びを選び、親子で関わり、他の来館者と交流したりできるよう考えてきました。 平日の午前中は、市外の乳幼児親子の来館も多く、はじめて来館しても楽しそうと思ってもらえる手作りおもちゃを用意したり、親子で安心して遊べるよう見守ったり、寄り添った声かけができるようにしました。4階のニコニコ広場だけでなく、3階でも楽しく過ごせるようコンビカーを用意しました。 未来館は、報告書にもある通り、それぞれのあそび場の特徴があり、来館した方が自分で選んで、その場所で過ごしていただいています。子どもたちの遊んでいる姿からどういった遊びを提供したら子どもたちが主役になって楽しめるかを考え、職員間、各あそび場で連携をとりながら進めています。 時間や学校休校日などで、来館年齢など、大幅に違いがあるので、その日の来館者に合わせて、あそび場を工夫することも大事であると思っています。 直営と講座委託の10人村、受付業務委託のボックス等とともに、連携をとり、未来館の運営をより良いものにしたいと思います。 また、支援の必要な親子についても、各児童館と連携をとり、情報共有しながら子育て世代包括支援センターとともに、今後も子育ての拠点の役割を果たしていきたいと考えています。
味岡児童	続きまして、味岡児童館の報告をさせていただきます。資料1-2をご覧ください。

館 長	ださい。 味岡児童館は一般社団法人なないろにこりが指定管理者となって2年目の運営となります。 遊びや学びの場としてだけでなく、居場所としてあたたかく居心地の良い関係が築けるような雰囲気作りに努め、子どもをはじめ、利用する方々の主体性を大切に育むことができる場となるため、試行錯誤をしながら運営を行っております。 コロナ禍もあってか、学校生活や家庭などで不安を抱えていたり悩みを持っていたりする人も多いように感じ、居場所づくりを意識して運営しています。 また、資料にもありますように、子育て世代にとって、各講座を通じ親子でふれあいの機会をもつことが楽しい時間となる反面、みんなと同じように過ごせず、子どもの発達や生活に不安を感じている親子も少なくありません。子育て支援室という名称が“支援を受けたい”人のみが利用する印象があるとのことから、気軽に立ち寄り、気持ちを伝えていただきやすいよう「ぱるぴよルーム」と愛称を設け、支援室が身近な場である、育児に対して「仲間」がいる、という心強さを感じていただけるように心掛けています。 中高生にとっても身近な場となるよう、毎週木曜日17時半～19時に「アオハルナイト」という中高生タイムを設けています。感受性豊かな時期だからこそ多様な人々との交流が大切で、仲間同士で遊ぶことはもちろん、スタッフとのおしゃべりや地域の方とクラフトを楽しむといったような姿があります。過ごし方は自由が基本ですが、多世代と交流できる機会となるには、という課題を持っており、まずはこの時間の定着を図っていきけるよう取り組んでおります。 中高生と児童館とのつながりは、小学生時代からどのように過ごしてきたかが大きく関わっていると思います。子どもたちが主体性をもった活動ができることによって、児童館になじみを感じ、子どもたちの「声」に耳を傾け、子どもたちの力で“やってみる”機会を大事にしました。そうしたことから「ぱるもあやしき」「ドッチボール大会」が子どもたちの手で企画、実行されました。関わった子どもたちからは、充実した笑顔と自信、一緒に活動した仲間のつながりが感じられ、子どもたちにとって“やりたいこと”が実現できるよう、できるだけフリーに使える時間と場所が用意できるように心掛けております。 4年度は児童館スタッフだけでなく、地域サポーターの方の活動も再開し、協力していただき、また地域の農協から提案があり、親子でサツマイモ栽培をする機会がありました。子どもの育ちに関心を寄せてくださる地域を感じることができた一年です。こうした地域に子どもたちがもっと親しみを感じてほしいと地域を巡る「ウォークラリー」を開催し、親しむ機会も持ってきました。 地域にとって児童館がどうあるとよいか、今後の課題の一つとして捉え、今後の運営を行っていきたいと思っております。
-----	--

篠岡児童館 館長	篠岡児童館の報告をさせていただきます。資料1－3をご覧ください。 篠岡児童館は、令和4年度も、①地域ぐるみで育ち合う児童館、②多世代で育ち合う子育て支援、③中高生が集い使える児童館、④多文化共生できる児童館、⑤社会教育を担う児童館、という5つの理念に基づき「児童館で遊ぼう・楽しもう」「地域と共に育ち合う児童館」ということを大切に運営してきました。 コロナ禍となり3年。時間や人数の制限が少しずつ緩和され、行事も開催できるようになってきました。きもだめしやおもちつきは残念ながら今年度も中止となりましたが、児童館まつりは3年振りに開催でき、密にならないよう館庭のみでの開催でしたが、久しぶりのおまつりに職員も子どもたちの喜ぶ姿を思い浮かべ、準備から力を入れ、多くの親子さんに楽しんでいただきました。児童館まつりでは、児童館の隣にあります篠岡中学校の生徒さんがジュニア奉仕団として受付や工作、ゲームコーナーで優しく子どもたちに声を掛けたり、盛り上げてくださり、準備や片付けも進んでお手伝いしていただきました。おやじの会の方には、児童館まつりのみならず、今年度8回開催のコンサートもサポートしていただいております。また、近隣の桃ヶ丘小学校の総合学習や中学生の職業人体験の受け入れ等、このような行事や活動には、地域の方々との連携があつてこそ、進めていけるものになっており、共に成長できる場となっております。今後も地域とのつながりを大切に、地域に根ざした児童館として活動していきたいと思います。 子育て支援室では、入園前のお子さんとママやパパが気軽に利用し、何でも話せる場となるように努めています。特に第一子のママは、はじめての育児の不安のみならず、日中の話し相手がおらず孤立しがちの方も多いので、ママたちの心に寄り添うことを大切にし、子どもの成長と一緒に見守りながら、ママたちの不安や悩みに耳を傾けたり、ママ同士の交流の場、情報交換の場となるよう心がけています。 篠岡児童館の特徴の一つとして広い館庭が挙げられます。今年度、砂場のおもちゃを増やしたことにより、砂遊びのひろがりが見られたり、コロナ禍で中止していたボールやドッチビーの貸し出しを再開したことで、以前にも増して外遊びを楽しむ子どもたちが増えました。ドッジボールや鬼ごっこ、田んぼの田などの遊びを通して、異年齢や学校が違う子ども同士の交流も生まれやすくなっています。体を動かして共に遊ぶことで心のつながりも持てるので、更なる館庭利用を子どもたちと考えていきたいと思います。 今後の課題としては、中高生の利用が学習室、居場所としても減少が続いていることです。中高生にとっても居場所の一つとなるよう工夫していきたいと思います。
小牧児童館 館長	小牧児童館の報告をさせていただきます。資料1－4をご覧ください。 令和4年度はコロナの影響で制限はありましたが、夏から少しずつ制限が緩

和されたことにより、多くの方に児童館をご利用いただけるようになりました。児童館まつりや夏祭りなども規模の縮小はしましたが、開催する事ができ、来館者の方から楽しかったという声をたくさんいただくことができました。

児童館全体として、来館者の乳幼児、小学生の増加と、その反対で中高生の利用の伸び悩みは令和4年度の大きな課題となっています。中高生に関しては、近隣に未来館、図書館など施設の整った場所があり、それでも小牧児童館に行きたいと思ってもらえるよう、関わりを増やし、少しずつですが来館してくれる子が増えてきました。今後もニーズを把握し居場所作りをしていきたいと思っております。

乳幼児に関しては、広場や講座のニーズが非常に高く、申込み開始日すぐに定員に達してしまうこともあります。広場等を通じて来館のきっかけとなり、児童館を利用する方が多くみえることもあり、来館のきっかけ作りの重要性を感じています。

また、人数制限があるため、支援室が定員になり、利用できない方に対して、部屋の模様替えや利用状況をみての柔軟な対応、また0歳児の親子の支援室を必要としている方が、利用できるよう赤ちゃん思いやり枠を作ったり、来館者が増える中でも満足していただけるよう職員が対応しています。

小学生に関しては、運動遊びの広場、プレイパークを毎週開催し、遊びを通じて学年学校関係なく、つながりを作り、また、自分たちで遊びやルールを考えることで、学年の小さな子に対する思いやりがうまれたりしています。児童館の活動に関しても、プランナーが中心となっていますが、行事の運営を企画から考えたりと、子どもが主体となった活動が始まっています。今年度は、プランナーに参加していない子も対象に、夏休みにおぼけやしきの企画のボランティアを募り、開催しましたが、大人の力を借りず、自分たちで最後までやり遂げた姿には感動しました。夏休みに何度も集まり相談したり、作成したりしての開催でしたが、子どもたちは大きな自信となったようで、お化け屋敷をやった子たちは、その後も積極的に活動をするようになりました。また、その姿をみて、私もやりたいという子も出てきて、メンバーが増えています。

地域交流に関してですが、今年度から小牧小学校区地域協議会に参加させていただいたり、地域の秋祭りに参加させていただきました。その中で、地域の方と顔見知りにもなり、地域に根付いた活動の一步が踏み出せたように感じます。

また福祉的課題を抱えた子どももいますので、地域とつながることで連携し、見守っていければと思います。

令和5年度も、0歳から18歳まで全ての子どもたちが安心してすごせる居場所として児童館がいられるように努力していきたいと思っております。また、地域連携も大切に、誰からも愛される児童館になっていくよう職員一同取り組んでいきたいと思っております。

	子どもが自分の気持ちを声に出して伝えられる場所、それが児童館だと思います。子どもの権利、子どもの主体性を尊重する活動を大切にしていきます。
小 牧 南 児 童 館 長	小牧南児童館は、小牧市南部コミュニティセンターとの併設館で、ふらっとみなみの愛称で親しまれており、「すべては子どもたちの為に」を合言葉に運営を行っております。 今年度もコロナの影響があり、夏まつりの中止や行事の規模縮小などありましたが、夏休み前の入館制限の緩和により、より多くの方に利用いただけるようになりました。コロナ以前の日常にはまだ戻りませんが、来館者には制限を感じさせないよう、ホスピタリティをもって対応するように心がけています。では、資料1－5をご覧ください。 今年度の強化目標「指導から支援へ」、という大きな目標を立て、職員主導であった行事や館内の遊びについて、今一度、利用者目線、子どもたちの目線に立ち、子どもの意見を入れながら考え、実践する1年を心掛けました。また、「全ての児童の受け皿になる」という児童館の原点に立った運営を心掛け、福祉的な課題を抱えた児童に対して、積極的なアプローチを実施し、その子の最善が何か、学校や関係機関と連携しながら支援を進めていくようにしています。 この南部地区は、地域のつながりが非常に強い地区であります。ふらっとみなみ運営協議会をはじめ、コミュニティセンターとの共催で七夕や夏祭り、クリスマス、節分、ひな祭りなど、季節のイベントを中心に開催しておりますが、地域の様々な世代の方々のご協力もあり、多世代交流を深めながら、児童館の運営を行っているところであります。 子育て支援に関しては、毎月1回、発達や離乳食、歯磨きなど、子育てに有益なお話を企業や有識者の方をお迎えし、講座を実施しています。ちゃんとした講座の形にしたのは、今年度からでして、まだ定着してはいないのか、参加者は少なめですが、保護者の子育てについての悩みに寄り添い、解決できるような情報提供をして参りたいと思います。 また、今年度は母と子クラブの需要低下によるクラブ数の減少により、毎週木曜日の午前中の遊戯室が空くことになりましたので、「木曜日だよ！全員集合！」と題しまして、全ての未就園児とその保護者、妊娠婦などを対象にどなたでも気軽に遊びに来ることができる広場を開設し、利用者の交流促進も始めました。ボールプールや風船、大型積み木など、月によって内容を変えながら実施中です。 このように、幼児親子に向けた内容は充実してきたのですが、高学年児童に向けた取り組みは、まだまだできていないところがあり、特に中高生の利用は昨年同様、減少傾向にあります。今年度から本格的に始めた「放課後 ChillOut」は、中高生に向け、児童館の開館時間を19時まで延長するというものですが、これもまだ定着していない為か、利用者が少ないのが現状です。参加している

	中高生の声を聴いたところ、金曜日や土曜日なら…という意見も出てきましたので、来年度は開催を土曜日に変更し、中高生の利用に結び付けたいと考えております。 児童館という狭い空間の中で、幼児～中高生といった幅広い年齢の異年齢交流をどのように進めていくのか、当面の課題として考えていきたいと思っております。 誰もが気軽に「ふらっと」立ち寄り、すべての方々が「ほっ」と一息つける居心地の良い空間であること。「すべては子どもたちの為に」という想いが職員だけでなく、保護者や地域の方々にひろがっていくよう、引き続き、真摯に運営をしていく所存であります。
北里児童館 館長	北里児童館の報告をさせていただきます。それでは、資料１－６をご覧ください。 北里児童館の令和４年度の施設目標は「設立３０周年！さらなる前進のために基本をしっかり！」とし、３０周年の節目に今一度、日常の運営方法を見直し、利用者目線にたったサービス提供ができているか、改めて職員全員で考えるきっかけとしました。 全体的に今年度の北里児童館は子どもたち、落ち着いた状況である印象です。館内でも大きなトラブルや事故もなく、比較的落ち着いているように思えます。 日頃の児童館での遊びの提供では、日常工作や季節の工作の入れ替えを工夫するなどし、子どもたちが来館する楽しみを増やせるよう努めました。毎月の工作講座の他に、夏まつりやクリスマスマジックショーなどの規模の大きなイベントも開催することができました。そのほか、小中学生のリーダー育成として実施している「こどもプランナー」について、今年度は人数も少なく、経験の少ない子ばかりでしたが、１２月には自分たち自身で企画し準備を進めたイベントを開催することができ、今年度ははじめからの成長が見られました。 子育て支援室については、各種広場やイベントはもちろん、日常の中での来館者の関わりに重点を置き、独立した部屋である支援室を活かし、ゆったりとした空間作りに努めました。母親同士の口コミでの初来館も多くあり、「ゆったりと過ごせる」ことを求めて来館される方が大勢いた印象です。 地域連携では、地域協議会への参加が挙げられます。今年１月には、北里小学校校区地域協議会主催のイベントに、出張児童館としてブースの出展をいたしました。来年度以降には、小木小学校校区地域協議会とも連携し、イベント等での協力ができればと考えています。また、昨年に続き、北里小学校の放課後子ども教室へ出張も実施し、児童館外での小学生・地域の子どもたちとの交流の機会となりました。他にも、前述の地域協議会のイベントや夏まつりなどのイベントをはじめ、特定日には、北里中学校ジュニア奉仕団の子どもたちがお手伝いに来てくれました。皆、とてもまじめに取り組んでくれており、来年度

	以降もぜひ協力をお願いしたいと思っています。 そして、今年度は設立30周年を記念した取り組みとして、ロゴ風船の配布や、30周年記念を銘打った大型イベントも企画しました。保護者の方から、「ちょうどオープンした年に遊びに来た」と話題に上がると、長い歴史を感じます。また、新たな取り組みとして、他の児童館とリモートでつないだオンラインイベントも開催することができました。 時代も変化していく中、新しいものを取り入れながら、今後も来館される方々にとって良い時間を積み重ねていけるよう取り組んでいきます。
西部児童館 館長	西部児童館の報告をさせていただきます。それでは、資料1－7をご覧ください。 西部児童館は、「来た人が笑顔になれる場所」を目標に、「地域との連携」として、西部コミュニティセンター運営協議会の方々、地域の方々にご協力をいただきながら、多くの方に喜んでいただける取り組みを提供させていただく為に、試行錯誤を続ける1年間でした。令和4年度は縮小しながらも行事を開催していき、密にならないよう取り組みました。待っていただけている嬉しさとコロナ禍の心配と入り混じりながらも、福祉施設としてできる事は何だろうと職員間で相談をしていきました。 子育て支援室は、コロナ禍の為、乳児を連れて外出するのは心配というママの声もととても多かったです。しかし、家庭で乳児と2人で過ごすのも、気がふさぐ、そんな中、子育て支援室へ行ってみようと、来ていただく姿に寄り添うことが多かったです。 居心地のいい子育て支援室を目指して、利用者の意見を多く取り入れた1年でした。ママたちの「やってみたい、試してみたい」に応える楽しい子育て支援室になるように努めて参りました。職員手作りのものも多く、オーダーメイドの誕生日ケーキは人気で、遊びにも繋がり、誕生日会を楽しみにしていただいています。 遊びを通じた子どもの育成としては、季節を感じる工作、年齢を意識した遊びの提供に心がけました。併設のコミュニティセンターの芝生広場を使う運動会、サツマイモ掘りは好評でした。小中学生に好評だったのは「体力チャレンジ」でした。記録にチャレンジして、友たち同士で競い合う・認め合う、カウントは友達に依頼して信頼を築く、チャレンジ時間について、「これをやったらこれができるな」などの予測をする等、遊びの中での育ちがみえました。 また、はじめて「小学館集英社プロダクション」指定管理者4館を ZOOM でつなぎ、競技遊びを展開しました。西部児童館が1位をとらせていただき、写真にもありますように、現在も優勝トロフィーは受付に飾っています。「これ俺たちが取ったんだよ」と話題に上げている子も多く、“嬉しい”が意欲に繋がっていると思います。 地域との連携として、西部コミュニティセンター運営協議会との合同事業は

	盛大にでき、夏祭り、ニューイヤーフェスタの参加から児童館を知っていただけきっかけにもなりました。地域コーディネーターと繋がることができ、令和5年度からは小牧西中学校のジュニア奉仕団活動を再開する予定となっております。職員や子どもたちと関わる事に興味を持ってくれ、役に立つ嬉しさを経験してくれればと思っています。中学生からの提案も取り入れ、子どもの意見を反映できる児童館でありたいと思います。 中高生の取り組みの一つとして、高校、大学受験生応援をしています。学習室利用から繋がり、コミュニティセンターと連携して、学びの時間を応援しています。毎月開催の工作「アートな時間」講座で作った、張り子ダルマを受験生にお渡しして「合格祈願ダルマ」として児童館に飾ってあります。受験生からは、恥ずかしいけれど嬉しい、また頑張りますと言ってくれたり、それを見た保護者からは、家族以外の祈願はありがたく嬉しいと喜んでいただいております。 父母クラブでは親同士の交流で、今年度は「サンキャッチャー」を作りました。親子での工作は、クラブ内で「タイルアート」をしました。保護者と子どもの意見をすり合わせて楽しい作品づくりができています。 評価できる点としては、職員の手作り玩具は工夫を凝らし、職員も楽しみながら行っている点です。利用者の声を常にうかがい、その要望に対して、迅速に responding している所だと思います。改善すべき点としては、周知方法の再検討だと思います。小牧市広報や館だより・HP と父母クラブや児童館の行事のお知らせを中心にブログを挙げています。児童館に足を運んでいただけるための改善策として LINE、インスタグラム、Wi-Fi の充実についても、今後考えていかなければならないと思っています。 これからも居場所として、多くの方に来館いただくために、周知をどのように進めていくか、子どもたちと話し合う時間を持つ等、どのように工夫していくかが課題です。これからも多くの方に関わっていただけるよう頑張っていきたいと思っています。また、中高生の居場所として、更に工夫をすることと新しいものにチャレンジしていければと思っています。
大城児童館 館長	大城児童館の報告をさせていただきます。資料1－8をご覧ください。 今年度は、大城児童館が開設されて、14年目の運営となりました。コロナ禍の中でも、イベントが徐々に開催できるようになり利用者たちの笑顔にあふれる一年になっていったと思っています。 地域運営協議会も再開することができ、地域のサポーターからは「イベント、一緒にやりましょうね」とよく声をかけてもらっています。 子育て支援室の状況につきましては、難しい親子や多胎児も多く、悩みを抱えたお母さん、もしくは、お父さんたちが利用されて、子育て世代包括支援センターとかなり連携ができるようになりまして、いろいろな形で支えていけるよう心がけています。

	今年度9月から始めました、平日の一時預かりを東部でも行えるようになりまして、創作室の一部を改修して対応しています。現在は、1か月に10組程度ですが、徐々に支援を拡大してほしいという声もひろがっておりますので、来年度も多くなるのではないかと考えております。 小学生、中高生が東部地区は非常に減っていますけれども、ジュニア奉仕団の活動などで、コロナの制限も緩和され、やっと、いろいろなイベント等に参加してもらえるようになってきています。 大城児童館の特徴としましては、多文化共生に力を入れておりまして、地域の元区長さんたちが「てまり塾」という日本語教室を支援の場として、実施してくださっており、最初は5人程度でしたが、今では25人を超えるようになりました。 また、東部まちづくり推進室と共催で、「こどもマルシェ」を開催しました。子どもたちからごっこあそびをしたいという声もありましたが、ごっこではなく本物をやろうということで、子どもたちのマルシェ、お父さん・お母さんのマルシェを2つ同時に開催して、子どもたちの中には、「お父さん・お母さんはあまり関わらないでね。」「現金販売をあえてしようよ。」「おつりという言葉をあまり理解していなかった子もいましたが、「私は10円均一でやるから、おつりはいらないよ。」という子もいて、いろいろな知恵を使いながら、500人を超えるイベントができました。 今後に向けては、より地域の周辺施設等と連携しながら、事業を進めていこうと思います。
こども 未来館 副館長	続きまして、(2) 令和4年度児童館・子育て支援室利用状況について、報告いたします。お手元の資料2-1をご覧ください。 表の上段は、令和4年度の12月までの数字、下段は令和3年度の1年間の利用人数となっています。「個人任意利用者数」は来館された人数で、「集団指導等利用者数」は、クラブ講座や工作等、職員が関わって指導した人数になっています。 児童館各館では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、講座等は人数制限や感染対策をしながら行ってきました。令和4年度は、一部減少している館もございますが、ほとんどの館で昨年度同様、もしくは増加傾向にあります。 次に、支援室の利用状況について説明します。資料2-2をご覧ください。こちらの表も上段は今年度12月まで、下段が昨年度の利用状況となっております。支援室では、ゆったりと過ごす親子や、職員に自分の思いを聞いてほしくて来館されるリピーターの方などの利用があります。保護者の方の支援の場として、支援室の役割は大きいと感じています。利用人数につきましては、減少しているところもありますが、市全体総数としては、増加傾向にあると考えております。 それぞれの児童館の支援室での相談は、先ほどの報告にもありましたが、子

	育て世代包括支援センターに報告してもらって、情報を共有し、他機関につながり必要のあるご家庭はつなげたり、今後も見守っていくなど、連携をとって支援をすすめているところです。
委員長	ありがとうございました。ただ今、令和4年度児童館現状報告と、令和4年度児童館・子育て支援室利用状況について、説明がありました。これについて、ご意見、ご質問はありましたら、お願いいたします。
中島委員	どこの児童館も素晴らしい取り組みをしていただいて、ありがたいなと思って、聴いておりました。小学校の授業とかだと、割と受け身のことが多くて、「こどもプランナー」とか、そういったところで主体性が育っていくのかなと思って、すごいありがたい存在だなと思って、拝聴いたしました。ありがとうございます。
中野委員	大城児童館で創作室を改修して、一時預かりを行っているということで、1か月に10組は、結構あるかなと、私は思いましたが、様子としては、どうですか。お母さんたちが、自分の時間のために利用される場合が多いですか。それとも、悩んで預けるという人が多いですか。雰囲気としてはどうですか。
大城児童館 館長	日頃、来ていただいているお母さんたちが慣れた場所で預けられるので、子どもたちの様子からいえば、とても落ち着いています。最初は、泣いてしまうかと心配しましたが、かなり落ち着いて利用してもらっています。その様子を見る他のお母さんたちも、「これなら安心だね。」と言ってもらっています。預ける理由として、今のところ一番多いのは、リフレッシュですけれども、悩みを抱えた、特に多胎児のお母さんたちは、困っている状況の時もあるので、「今度、預けていいよ。」とお伝えすると、「2人預けていいんですか。」と尋ねられたので、「当然、いいですよ。」とお話したりしています。これから、どのようになるかわかりませんが、様子を見てると子どもたちがホッとしているように感じます。
中野委員	そのような雰囲気なら、良いかなと思って聴いておりました。ありがとうございます。
委員長	資料やご発表の中で、大抵の児童館から「安心・安全」という言葉が出てきていますが、一年やっていただいて、こんな事故、あるいは怪我があったとか、そこまではいかなかったけど、ヒヤッとしたなということがあったら、言える範囲で結構ですので、教えていただけると、他の児童館の参考になるかなと思いますが、何かあったら教えてください。
こども未来館 副館長	こまきこども未来館です。やはり、「安心・安全」を目標にしていますが、体を動かす施設で、遊ぶ遊具が沢山あり、親子で楽しんで遊んでくださっていますが、お子さんの動きがお母さんたちの予想と違ったりして、支えきれなかったり、嬉しすぎてはしゃいだりとかで遊具から落ちたりとか、転んだりして怪我をされたという状況は、何件かありました。
委員長	子どもの動きですので、今、おっしゃられたとおり、大人の想定外の動きを

	しますし、楽しければ楽しいほど、汗をかいて走り回りますので、気をつけてみえると思いますが、今後もよろしくお願いいたします。 支援室利用実績報告書について、繰り返しになりますが、ひとつひとつの児童館の上段が今年度の12月まで、下段は昨年度一年間ですので、このまま数字を比べるという訳にはいきません。上のほうが、おそらく4分の3くらいの数字になるだろうということです。 実績報告書のほうで、子育て世代包括支援センターについて、今年の育児相談が、昨年と比べると倍増くらいになりますが、何か傾向として、多かった内容はありますでしょうか。
こども未来館副館長	いろいろな相談がありますが、発達や離乳食についての相談が多いかなという印象です。
委員長	それでは、ご意見、ご質問もないようですので、次に移らせていただきます。(3) 児童館利用者アンケートについて、説明をお願いいたします。
事務局	それでは、(3) 児童館利用者アンケートについて、報告をさせていただきます。お手元の資料3をご覧ください。 指定管理者制度を導入している児童館においては、年2回のアンケート調査を義務付けておりますが、全館共通様式を使用したアンケートを年1回実施することで、各館利用者の満足度を比較することができ、児童館運営の統一的な質の向上に努めることを目的に実施しております。 アンケートは、児童館を利用する児童及び保護者を対象として、小学生、中学生以上、保護者の区分に分けて、令和4年12月5日から12月25日までの期間で実施いたしました。市内全8館で、小学生430人、中学生以上251人、保護者411人から回答をいただきました。 小学生のアンケートでは、「児童館は楽しいですか？」の質問に対して、約97%の児童から「はい」という回答をいただき、昨年度と比較して約3%アップしています。自由記述においても、「楽しい」、「おもしろい」などの肯定的な声を多くいただいております、高い満足度を得ていることがわかります。 続きまして、中学生以上のアンケートについてですが、「児童館へ行くことは楽しいですか？」の質問に対して、約87%の児童から「はい」という回答をいただき、昨年度と比較して約10%アップしています。他の項目についても、肯定的な回答が増えており、各館にて、実施している中高生の利用促進・居場所づくりに関する取り組みの効果によるものであると考えられます。 また、「どんなときに児童館を利用しますか？」の質問に対して、「勉強するとき」、「友だちと遊ぶとき」といった声が多く、幅広い分野において、中高生の居場所になっていることが読み取れます。今後も、児童館が小学生だけでなく、中高生にとっても、居心地の良い場所となるよう工夫していきたいと考えております。

	次に、保護者のアンケートについてですが、満足度を図る複数の項目において、約95%以上の方から、肯定的な回答を得られたことから、昨年度に引き続き、満足度の高い状況を維持できていることがわかります。自由記述においても、「子どもを安心して遊ばせられる」、「子育ての悩みを相談でき、リフレッシュできる」といった声が多く、児童館は、保護者にとって、心の支えとなる、かけがえのない居場所になっており、子育ての不安を解消するといった、大きな役割を果たすことができていると考えております。 最後に、全体に共通していますが、衛生面や安全面、運用面に関する要望については、各館にて、可能な限り対応していきます。 また、児童館と地域のボランティア等との連携を図る項目について、どの区分においても、昨年度と比較して肯定的な回答が増えており、昨年度に比べ、各館にて、多くのイベント等を開催することができ、その際に、地域のサポーター・ボランティアや、こどもプランナー・こどもスタッフにご協力をいただいている様子を来館者が目にする機会が、少しずつ増えてきたことによるものと考えております。 今後も、地域の方々と連携しながら、地域に根ざした児童館事業を行ってまいります。 以上、簡単ではございますが、児童館利用者アンケートの報告とさせていただきます。
委員長	ありがとうございました。ただ今、児童館利用者アンケートについて、ご報告いただきましたが、これについて、ご意見、ご質問がありましたら、お願いいたします。 今のご説明の中で、昨年度に比べて3%アップのような表現がありましたが、昨年度の数値は載ってないですね。
事務局	次回から、昨年度の数値も含め、資料をまとめたいと思います。
委員長	お願いします。 非常に高い満足度と、今ご説明の中にありましたように、肯定的な意見が増えているということで、ご尽力いただいている結果だと思いますので、改めてお礼を申しながら、次へいきたいと思います。 それでは、(1) 令和5年度児童館活動方針・活動目標（案）について、説明をお願いします。
こども 未来館 副館長	(1) 令和5年度児童館活動方針・活動目標（案）について、説明いたします。お手元の資料4をご覧ください。 目指す子ども像・活動目標ともに、今までと大きな違いはありませんが、児童館は児童の健全育成の拠点として、安心を求める子・友だちとのつながりを求めにくる子・好きな遊びを求めてくる子など、様々な子どもたちの居場所となるよう各館が地域の方々の協力を得ながら活動していきたいと考えていま

	す。 また、現状報告でも申しましたが、こまきこども未来館では、小牧市の中央児童館として、各児童館と情報を共有し合い、子どもたちの夢へのチャレンジを支える豊かな学びの提供をし、併設の子育て世代包括支援センターと切れ目のない地域の子育て支援の拠点として、運営していきたいと考えています。
委員長	ありがとうございました。ただ今、(1) 令和5年度児童館活動方針・活動目標(案)について、ご説明をいただきましたが、ご意見、ご質問はございませんか。
中野委員	報告からつながりますが、西部児童館を含む4館で、オンラインでのイベントがありました。かたまっちゃうということはないですね。児童館は、あくまでも、こまきこども未来館が中心となって、報告や連携はしてみえるということではわかったのですが、館の色が強くなると、小牧市全体のイメージとかけ離れてしまわないかなと、少し気になりましたが、資料4で方針が書いてあるから大丈夫かなと思います。小学館では、小学館の取り組みもあると思いますし、それは児童館の特色として捉えれば良いのかなとも思います。どうでしょうか。
事務局	その認識で、お願いいたします。
委員長	先ほどのご報告で、ほとんどのところにありましたが、小中高等学校との連携、居場所づくりが課題であるということでした。何か総論としてつくられるときに、願い・目標があると良いかと思います。具体策がありましたら、教えてください。
事務局	夜の時間帯を少し長くして、中高生利用 DAY みたいなかたちで、その時間は中高生が中心となって児童館を使えますといった取り組みをはじめているところです。なかなか定着まで、至っていないですが、長くこの活動が続けることで、少しずつ中高生にも、夜に児童館に行って、自分たちの場所として使えるんだという意識を持ってもらい、自主的な利用が進むようなかたちをこれからも作っていきたいと考えております。
大城児童館長	大城児童館も21時まで開館しておりまして、中学生は19時まで、高校生は21時までです。このところ、学校の先生と話す中で、不登校の子が増えてきているということで、学校に行きたくないのか、子どもたちが追い詰められている状況にあるのかなと思います。その中で、不登校になっていた子が児童館での活動を通して、また学校に行けるようになったという事例があり、嬉しく思いました。児童館はそういった子たちの居場所になるのかなと思います。
中島委員	中学校3年生約70名のうち、14名が不登校で、昼間に何をしているのかなという話をよくしていて、中高生向けの利用について、夜の時間帯での、ご説明でしたが、昼間も利用できるものはあるのでしょうか。
こども未来館	学校のある時間帯に来られる方は少なく、学校が終わってから来られる方が多いかなと思います。

副館長	私たちとしては、保護者の方とつながりがあって、内情をわかっていますが、あえて、そのことに触れない、他の子と同じように、児童館に来て、「好きなものがあったら遊んでいってね。」という体制で受け入れています。 「学校行けてないんだ」と話すお子さんや、「学校どうしたの?」と聞かれるのが嫌なお子さんなど、様々な事例があるので、保護者の方や学校と連携して、そういう子たちが少しでも楽しんでもらえるといいなと思っていますが、今のところ、あからさまに、学校行っていないから来てますといった子はいないです。
中島委員	本人が望めば、そういったことも可能ですか。
こども未来館副館長	はい。
委員長	不登校については、小牧市でも大きな課題であります。全国的にも、文科省の集計によりますと、9年連続で不登校が増えております。令和3年度の数字ですが、令和2年度と比較して、小中の平均で24.9%増えております。 中学校の発生率は、全国平均で約5%ですので、どこの地域でも大きな課題となっています。 非常に難しい問題ではありますが、児童館でも助けていただけますとありがたいなと思います。 それでは、ご意見・ご質問も終わったようですので、令和5年度児童館活動方針・活動目標（案）につきましては、原案のとおり承認することに、ご異議ありませんか。 （異議なし） 異議なしとのことですので、令和5年度児童館活動方針・活動目標（案）につきましては、原案のとおり承認されました。 次に、（2）令和5年度児童館クラブ活動・行事計画（案）について、ご説明をお願いします。
こども未来館副館長	それでは、（2）令和5年度児童館クラブ活動・行事計画（案）について、説明いたします。お手元の資料5－1をご覧ください。 クラブ活動は、共通の関心や興味をもった子どもたちが集まって活動するものです。こどもスタッフ・こどもプランナーといった子どもたちの話し合いの場を計画的に設け、自分たちで企画し、実行することができるよう活動もあります。それぞれの館で、地域性を活かして活動しています。令和5年度は、各館の状況にあわせて開催日を変更し、より多くの方に利用していただきたいと思っています。 続きまして、行事についてです。資料5－2をご覧ください。 令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、中止になったもの

	などもありましたが、令和5年度は、子どもたちが様々な体験や経験ができるように考えています。それぞれの児童館で、地域性を活かし、地域の方々の協力を得ながら、季節の行事や伝統行事なども大切にし、行っていきます。 多世代交流プラザとしまして、令和4年10月に市民活動祭と共同開催で、こまキッズフェスタを行いました。各館それぞれの児童館の特色を紹介しつつ、遊びや工作などブースを出し、開催いたしました。令和5年度は、市民まつりと同時開催で行う予定をしています。内容は各館の意見を聴きながら、調整していきます。 また、11月には「元気スイッチ on!! あつまれ! あいちのじどうかん」という愛知県内の児童館が一堂に会する児童厚生員による児童厚生員のための研究大会が行われます。令和5・6年度は、小牧市が愛知県児童館連絡協議会の会長市になるので、こちらについても確定ではありませんが、小牧市で開催する予定になっております。
委員長	ありがとうございました。ただ今、(2) 令和5年度児童館クラブ活動・行事計画(案)について、ご説明をいただきましたが、ご意見、ご質問はございませんか。 先ほどの、児童館の活動目標2(3) 地域に根ざした児童館事業を行う。ということですが、この場合の地域は、狭い地域を指すと思いますが、そういった意味で、各児童館が計画をしている行事、あるいは内容で、これは目玉であるとか、地域に根ざした特徴を捉えたものであるとか、実は来年の売りです、といった行事があれば、教えてください。
味岡児童館 館長	味岡児童館には、館庭にかまどがあり、稼働させるには、地域の方々のご協力をいただいて、行っていることもあります。「かまど名人」というかまどを使う企画を行ったり、そこから料理をするような企画に結び付け、10月の「ザウルスまんじゅうづくり」、3月の「おこしものづくり」は、季節を感じながら、地域の方と楽しむという行事になっております。 今年度、ウォークラリーで児童館の外に出るイベントをやったこともあり、季節を感じながら、地域の方の協力のもと、来年度についても、「おつきみどろぼう」という日本版のハロウィンみたいなイベントを地域の方とともに、行っていきたいと考えております。
篠岡児童館 館長	篠岡児童館では、地域のおやじの会の方のサポートにより、1年に8回コンサートをさせていただいておりまして、その出演者の方も様々で、ピアノと歌のコンサートだったり、バイオリンだったり、マリンバだったり、尺八や琴、いろいろな方に出演いただいております。その中で1月にあります「ニューイヤーコンサート」では、隣の篠岡中学校の吹奏楽部の生徒さんに来ていただきまして、吹奏楽の演奏をさせていただいております。今年も先月ありましたが、なかなか、生の吹奏楽を聴いたりとか、大きな楽器を間近に見ることは、小さ

	な子どもにとっては、はじめてのことでとても貴重な時間になりました。来年度も演奏していただきたいなと思っております。
中島委員	西部児童館のパパ企画とは、どんな内容ですか。
西部児童館 館長	なかなかお父さんにおいでいただくのには、敷居が高いようで、赤ちゃんのお父さんは、はじめての育児参加みたいな感じでおいでいただけるんですが、小学生のお父さんとかが「もういいや」みたいな感じが多いです。なるべく継続して遊びに来ていただけるためには、こんなことやってますよということをご紹介させていただいて、じゃあ、ちょっと行ってみようかなというきっかけづくりになればいいかなと思っています。 まずは、お父さんの得意なプラレール、子どもも喜ぶんですが、先月も開催させていただいたのですが、子どもは動かないなと思っていると、お父さんが組んで、とても大きな線路がつながりましたので、お父さんも楽しんでいただけて、お父さんのすごく良いところを子どもが見て、お父さんカッコいいねというところに繋げていければいいと思っていますので、まず、お父さんに楽しんでいただいて、また、お母さんにも楽しんでいただいて、育児に前向きに向かっただけのようなことを頑張ってもらいたいかなと思っています。
小牧児童館 館長	小牧児童館では、今年度、地域に根ざした活動ということで、小牧小学校区地域協議会に参加させていただいております。地域協議会となると小学校区だけになってしまうので、他の地域もということで、11月に「地域とあそぼう」というイベントを企画しております。地域のお祭りに行ったときに、近隣にすごく良い神社があったりとか、良い場所はあるのですが、外に出ていくということが難しいかもしれないので、逆に地域の方が、気軽に来られるような日をつくれないかなと思っています。また、地域を知るところで、すごく近くでこども食堂もやっておりまして、そちらのほうにボランティアで、参加させていただいているのですが、まず、児童館のほうから、アウトリーチをして、地域を知って、その地域を知ったことで、逆に地域の方を巻き込んで、少しずつ、地域と繋がっていけないかなと思っています。
小牧南児童館 館長	小牧南児童館は、地域の方と関わらない企画のほうが少ないです。ほとんどのものが、コミュニティセンター含め運営協議会と一緒にしておりますが、一番大きなものと、秋に行われる「三世代交流 あきまつり」ですね。7月の「お相撲さんとあそぼう」も小牧市出身のお相撲さんを招き、地域の方も一緒に応援いただいたりだとか、11月に「児童虐待防止キャンペーン」ということで、地域の方に、子どもたちのことを知っていただこうと、毎年行っております。
小島委員	三世代交流というのは、どんなことをされているのでしょうか。
小牧南児童館 館長	社会福祉協議会から補助金をいただいており、高齢者から子どもたちまで、すべての方が一緒になって楽しんでいただける企画ということで、毎年行っております。

小島委員	なかなか、児童館に年配の人が行く機会は少ないと思います。孫が遊びに行きますが、それについて行くことはできないので、三世代交流をやっていたけると、年配の方も行きやすいのではないかなと思います。
小牧南児童館長	コミュニティセンターと連携しておりまして、コミュニティセンターは高齢の方の利用も多いので、そういった方たちにも楽しんでもらえるよう、行っていきたいと思います。
小島委員	地域の特色で、小牧南児童館は一緒にできるので、良いですね。他のところは、なかなか一緒になっていないので、難しいかもしれませんが、そういった行事があると良いかなと思います。
北里児童館長	地域とのつながりとして、北里児童館で一番大きなところは、地域協議会との連携でございます。北里小学校区、小木小学校区の2つの会議に参加をして、イベント等、対応しております。北里小学校区地域協議会と連携し、「北里フェスティバル」の中で、出張児童館として、ブースを出させていただきました。昨年度は、コロナの関係で中止となってしまったため、地域協議会での児童館も含めた、スポーツ振興会や地域の関係団体と一緒にできたイベントとして、今年度、はじめて実施することができました。来館者数は、そこまで多くなかったですが、ここから更に動き出そうというところであります。それに加えて、小木小学校のほうは、規模が小さく、なかなか活動ができていないところではあります。北里の動きを受け、児童館も含めて、いろいろな取り組みをやっていけるといいねという来年度に向けた企画もしております。児童館主体の企画だと、どうしても子どもたち対象には、なっておるのですが、地域協議会主催のイベントでの出張児童館のブースには、大人の方も参加していただくこともできますし、普段子どもたちに提供しているスライムづくりなどのプログラムも体験いただいたところでもありますので、そういった活動がひろがるように、特に次年度以降、心がけていけたらなと思っております。
西部児童館長	西部児童館では、小さなことですが、「しめ縄づくり」を恒例にやらせていただいております。西部コミュニティセンターと併設しておりますので、大きな事業は、みなさんにかわいがっていただいて、一緒に参加いただいております。事業があるたびに、どうなのと覗いていただけるような、あったかい感じになっていければと頑張っております。「しめ縄づくり」の稲については、三ツ渚小学校の稲刈りに参加させていただいて、繋がらせていただいております。また、手作りの工作が得意な西部児童館としては、館だよりを配布している保育園から牛乳パックの協力をいただいております。いろいろなところでかわいがっていただいて、地域の方に気にかけてもらえる児童館になっていけたらなと思っております。
大城児童館長	大城児童館は、地域運営で行っておりますので、いろんな団体や個人の方と連携しながら、サポーターに助けてもらっています。例えば、小中学校のおやじの会の方々に、イベント時に大工さん体験だとか、いろんなブースを出して

	もらったり、大草の婦人会の方々には、毎年おまつりで、ハンドベルをやってもらっています。大草の結び付きでいいますと、「バンブーアートフェス」を3年振りに開催できまして、そこに児童館の音楽室から音響機材を貸し出したりしながら、アートイベントを地域のみなさんと一緒に行いました。
中野委員	こどもプランナーが多く出てきていて、小牧南・小牧・北里・西部に記載があり、北里と西部は、こどもプランナーの企画イベントが行事計画に入っていますが、小牧と小牧南はどのような形で取り入れられるのかなと思ひまして、子どもたちがプランするということで活かしてあげたらなと思ひますが、どのようになっていますか。
小牧児童館 館長	こどもプランナーの活動としましては、行事の中にこどもプランナーが入ってきておりまして、来年度ですと、早々に「新一年生歓迎会」ですけど、今までだと、職員が全部最初から挨拶から何もかもはじめておりましたが、前回クリスマスの時に、子どもたちに司会をさせたりとかもしまして、今回の一年生歓迎会で、子どもたちに何をやりたいのかを聴きながら、あと中学生のメンバーもいますので、中学生が主体となって、子どもたちの意見を集めて、流れも組んでくれますので、「夏まつり」、「おばけ屋敷」、「謎解き 児童館を脱出せよ!」、「ハロウィンパーティー」など、すべてのところに子どもたちの意見を反映させようと思ひています。今後いろいろと増えていくと思ひます。また、単発の企画ではありますが、小牧児童館に設置されている大きなボードに子どもたちがやりたいことをどんどん貼っていて、職員のほうから声掛けは、特にしていませんが、〇月〇日にやります!といった形で急に企画がはじまったりすることもあると、子どもたちが主体的に動き始めているところです。
小牧南児童館 館長	小牧南児童館も同様です。
富嶋委員	行事計画を見せていただいて、本当に季節感たっぷりで、伝統行事も取り入れた計画をどこの児童館も工夫されていることを目の当たりにして、子どもたちには、様々な家庭環境、国籍がある中で、すべての子どもたちの受け皿として、計画されているんだなということで、本当に感謝あるのみと思ひております。先ほどの話にもありましたように、どこの児童館も地域協議会ですとか、おやじの会との連携ということを考えてみえるということで、残念ながら、本校は地域協議会が立ち上がっていない地区です。今月頃から立ち上げということで、動いていくので、そういったところで、児童館にも、ご協力いただいたりすると、児童館の可能性がひろがって、良いことだなと思ひております。また、よろしくお願いいたします。
委員長	では、ご意見・ご質問も終わったようですので、令和5年度児童館クラブ活動・行事計画（案）につきましては、原案のとおり承認することにご異議ありませんか。

	(異議なし) 異議なしとのことですので、令和5年度児童館クラブ活動・行事計画(案)につきましては、原案のとおり承認されました。 次に、(3) 令和5年度児童館の子育て支援(案)について、ご説明をお願いします。
こども 未来館 副館長	それでは、(3) 令和5年度児童館の子育て支援(案)について、説明いたします。お手元の資料6をご覧ください。 先ほど、報告中でありました支援室だけでなく、各児童館では、登録制の母と子クラブや自由参加のちびっこ広場などで、親同士の交流もできる場になっています。現在、核家族化が進み、頼れる人が近くにいない方や、一人で子育てをしていると感じている方もとても増えています。親子で楽しめる講座や教室を提供し、児童館が子育て支援の場のひとつとなるよう、今後も保護者に寄り添っていきたいと考えています。
委員長	ただ今、令和5年度児童館の子育て支援(案)についてご説明がいただきましたが、ご意見、ご質問がありましたら、お願いします。 ご質問もないようですので、令和5年度児童館の子育て支援(案)につきましては、原案のとおり承認することにご異議ありませんか。 (異議なし) 異議なしとのことですので、令和5年度児童館の子育て支援(案)につきましては、原案のとおり承認されました。 以上をもちまして、本会に提出されました議事につきましては、すべて終了いたしましたので、進行を事務局にお返しします。
事務局	委員の皆様、速やかな議事の進行にご協力いただき、ありがとうございます。最後に、全体を通して、ご質問等はございませんか。 これをもちまして、令和4年度第3回小牧市児童館運営委員会を終了させていただきます。本日はありがとうございました。